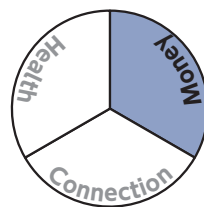


レジ袋有料化で国民の意識は変わるのか？



調査研究本部 研究員 高宮 咲妃(たかみや さき)

なぜレジ袋が有料化されたのか？

2020年7月1日から「プラスチック製買物袋(レジ袋)有料化」が全国で開始されました。法整備を行ってまでレジ袋を有料化した背景には、廃棄物・資源制約、海洋プラスチックゴミ問題、地球温暖化等の環境問題が大きく関係しています。日本はUNEP(国連環境計画)の報告書の中で、一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量が主要な地域・国の中で2番目に多いと指摘されています(資料1)。

もっとも日本から毎年排出される廃プラスチックのうちレジ袋が占める割合は2%程度と言われており、プラスチックごみ全体の量から見れば僅かでありませぬ。それに関わらず、レジ袋有料化に踏み切った背景の一つには、社会の意識を変化させるための象徴的な効果への期待があります。

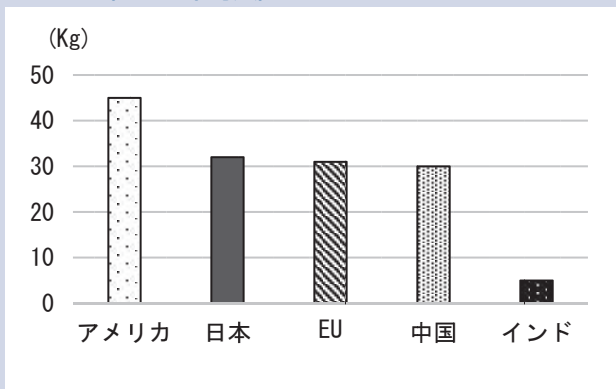
また、すでに60か国以上でレジ袋に禁止を含めた規制を行っており、国際的な要請・緊急性が高まったという背景もあります。

レジ袋有料化の影響

経済産業省・環境省「プラスチック製買物袋有料化実施ガイドライン」では、レジ袋有料化の目的は「消費者がその必要性を吟味する機会を提供し、ひいてはマイバッグを携行する習慣が浸透するなどライフスタイル変革を促すこと」と明記されています。

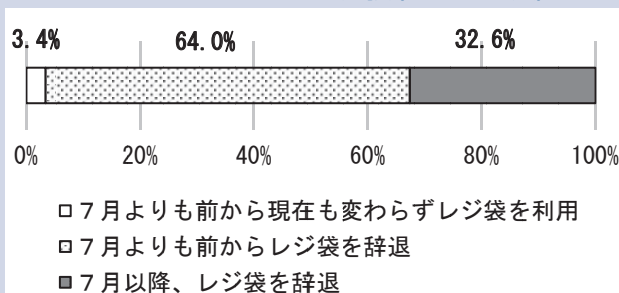
では、有料化によって消費者の意識や行動はどれくらい変わったのでしょうか。消費者庁が20年8月に行った調査では7月以降、新たにレジ袋を辞退するようになった割合は32.6%となっています(資料2)。また、同じく8月に公益財団法人旭硝子財団が行ったアンケートでは、レジ袋有料化による環境問題への意識・行動に変化があった割合は74.3%となっており、早くも個々の意識や行動の変化が見られています(資料3)。企業においても「SDGs(持続可能な開発目標)」を掲げる企業が増えてきました。徐々に日本全体に理解が浸透していけば、環境問題の解決に向けて効果が生まれることが期待されます。

資料1 一人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量(2014年時点)



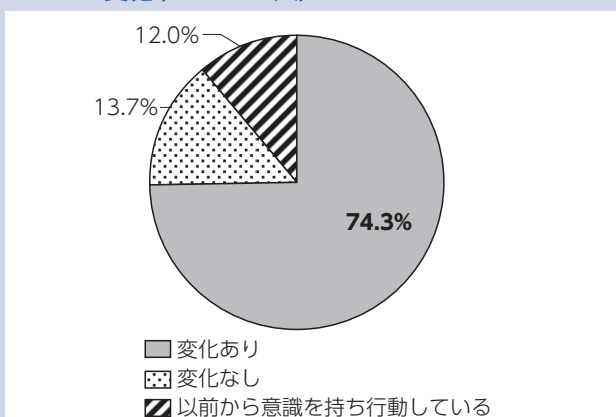
(出所)国連環境計画(UNEP)2018年度報告書「シングルユースプラスチック」より第一生命経済研究所作成

資料2 買い物する際のレジ袋に関するあなたの行動に当てはまるものを1つ選択(N=1845人)



(出所)消費者庁「レジ袋有料化に関する意識調査結果」より第一生命経済研究所作成

資料3 レジ袋有料化による環境問題への意識・行動の変化(N=1092人)



(出所)公益財団法人旭硝子財団「第1回 日本人の環境危機意識調査」より第一生命経済研究所作成